



日高特支 車椅子の子供たちを守る！ 防災力向上計画



埼玉県立日高特別支援学校

本プランの3つの柱

1. 本校児童生徒への防災教育の充実
2. 保護者・地域との連携
3. 教職員・保護者の防災力向上

成果

課題

今後の予定



1. 本校児童生徒への防災教育の充実

①自分の身を守る方法を知る・身につける

一斉指導

事前指導

全校集会で実施
緊急地震速報を聞いた時
の対応について



事後指導

避難訓練後の事後学習
生徒が前に出て発表
気をつけることを指導



各学年・グループ

ショート訓練

事前指導として朝の会で身の守り方

頭巾、ヘルメットの場所確認・被る

チャイム音を聞く

絵本や紙芝居を読む

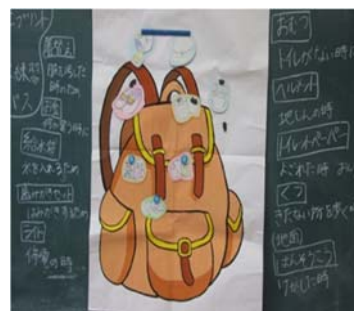


事後指導として帰りの会で振り返り等

各教科

家庭科（小学部）

- ・ 非常持ち出し袋、非常食
- ・ 地震の時の身の守り方



理科（高等部）

- ・ 地球の構造、地震の種類
- ・ 緊急地震速報の仕組みと限界

国語（高等部）

- ・ 地震の時にどうするか？劇作り



訪問部（高等部）

- ・ 非常持ち出し袋、ぼうさいマン

② 「特別」から「いつも・日常的」に行う取り組み

本校で取り組んできた**ショート訓練**

(緊急地震速報を用いた退避行動訓練)

年7回（抜き打ち）
様々な場面、時間での実施

緊急地震速報 発報

身を守る行動をとる

訓練であることを告げる

振り返り 事後学習



おちてこない
たおれてこない
いどうしてこない

怖い音ではない
みんなを守る音

ショート訓練のメリット

- ・ 肢体不自由校の場合、教職員が子どもを守る体制が大切
（ハード面・ソフト面共に）
- ・ やってないことは実際の災害でもできるはずがない

訓練の重要性

- ・ 避難訓練は実施可能時期が限定
肢体不自由校は体調面で配慮が必要
- ・ ショート訓練は時間や天気、季節に左右されず実施可能

退避行動のみで短時間の実施・取り組みやすい

防災学習による成果

自 助

- ・ 自ら頭巾を被る
- ・ 上を見て、落ちないところに移動する
- ・ 教員に頭を守るものを取ってもらう
- ・ 落ち着いて取り組む

共 助

- ・ 友達の頭巾を一緒に取って渡す

給食中に地震発生時、落ち着いて身を守る行動がとれた

防災部コーナー（いつでも学習・体験ができる）



クイズや緊急地震速報が聞こえるスイッチ

楽しみながら体験できる



イラストを見て地震の対応を考えるきっかけに

③様々な体験ができるような避難訓練の実施

避難訓練 地震と火災の総合訓練
起震車体験・水消火器計画
当日雨天のため校内避難



児童生徒に分かりやすい教材
車椅子ならではの困難さを体感

- ・避難経路に障害物
- ・ガラスに見立てる
- ・障害物としての火の的



避難不可 ↓ パニック

**「避難経路の安全確認をするまで
安全な場所で待機」に変更**



2. 保護者・地域との連携

①防災体験プログラム



保護者が企画に参加



- ・ 東日本大震災を体験した人の話
- ・ 避難所体験
- ・ 炊き出し
- ・ 防災スタンプラリー
- ・ 石巻の親戚が体験した震災の話



協力

社協 市役所
消防署 防災士会
埼玉県防災学習センター
埼玉県いつでもどこでも炊き出し応援隊
(NPO、JA、LPガス)



防災への意識をもつきっかけ



防災を手がかりに地域をまきこむ

保護者も一緒に楽しめる



体験した気づきから備えへ

手動の吸引機

非常食・日用品・必需品

パンクしないタイヤ・保冷剤



課題

就学前、卒業後の施設、医療機関と連携

災害時の職員の動き（分かりやすく）



参加者を増やすための工夫

②他校との情報交換・アンケート

県内肢体不自由児校 8 校に実施

- ・ 県立は校区が広いので引渡し不安
- ・ ショート訓練実施校は 38%
- ・ 肢体校の防災の課題「**3ない**」

教材 **実態** **時間**

→**ショート訓練で解決できるのでは？**

- ・ アンケート結果・本校ショート訓練指導案 配布

③企画・参加することで防災への興味を持つ

避難訓練を見学

災害時の車椅子の課題点を指摘

炊き出し経験のあるうどん屋さんを呼んで学習会

震災がテーマの映画上映会の企画

防災委員会の設置 防災への取り組みを継続



3. 教職員・保護者の防災力の向上

①研修の充実

校内D I G

校内待機想定訓練

本校の実態に合う防災教育の指導方法

車椅子の地震・煙体験を映像で確認

S B乗車時対応訓練

竜巻発生時の対応



引渡し訓練



- ・ 校内待機想定、職員の駐車も通常通り
- ・ 雨天のため引き渡し場所を変更し大渋滞
- ・ 学校災害対策本部の場所、指示連絡系統が不明確
- ・ 引渡し手順の混乱
- ・ 引渡し終了までに予定より40分オーバー

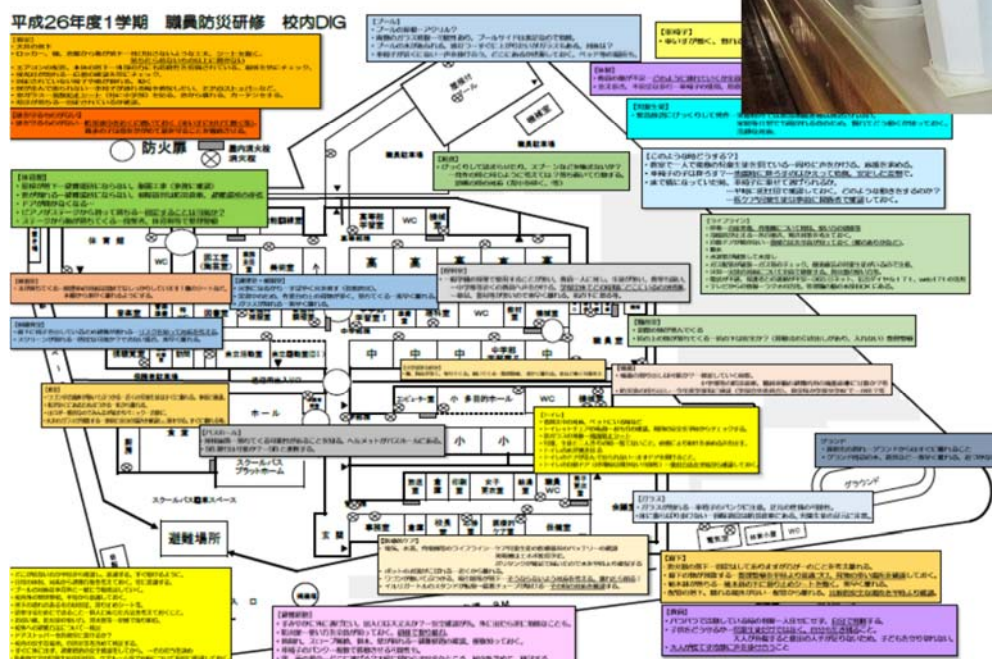
**引渡しカード方法の確認
引渡しカード・緊急時対応票の見直し
車の安全な誘導方法の検討
各担当の動きを分かりやすくする**

- ・ 最悪な状況を把握し、改善
- ・ 色々な設定で実施し、課題を明確化



②フィードバック

D I Gの意見を元に校内図にまとめる



訓練の反省を元に行動を分かりやすく

災害時アクションカード作成



各担当の仕事を時系列（色別）
誰が見てもすぐにわかる
A4サイズ

「休日夜間」・「校外学習時」
A5サイズ 携帯できる

各学年・指導グループで指導方法を考える

ショート訓練の指導案改訂

日常の場面での指導が災害時にも必要な力

- ・ 身を守る 頭に被る
- ・ 他人の支援を受ける
- ・ 落ち着いた対応 など

成果

- ・防災体験プログラムにより、参加者の多くが防災への意識を高め、防災対策の重要性を感じた。
2学期以降の授業に活用できた。
- ・実態に応じ、授業（教科・領域）で防災について取り組むことができた。
- ・職員研修で児童生徒につけさせたい力を考えた。
ショート訓練指導案の改訂等、具体的な指導ができた。
- ・ショート訓練により、いつ、どんな時でも災害に対応する力が向上した。環境整備、体制の見直し等につなげることができた。

課題

- ・ **本校の児童が取り組める防災教育の内容の精選**
重度重複の児童生徒 教育課程 生徒会活動
- ・ **地域との連携**
車椅子の存在 必要な支援 医療との連携
- ・ **実践的な研修の計画**
職員の防災意識の維持、向上 校内組織と連携
- ・ **様々な想定の実践**
防災マニュアル、災害時アクションカードの活用
ショート訓練の工夫
- ・ **本校の取り組みを発信**
地域、他の肢体不自由校

今後の予定

- ・ 防災教育の充実
- ・ 防災体験プログラム
- ・ 職員の意識向上
- ・ PTA防災委員会との連携
- ・ 2015年度防災教育チャレンジプラン

1年間ありがとうございました！



防災教育チャレンジプラン